

プライマリ・ケア連合学会近畿地方会  
特別シンポジウム  
2021年11月28日

「地域はコロナ禍とどう向き合ったか？」

フランスでの対応/職場でのクラスター

愛港園診療所 木戸友幸

# 2020年春のフランス特養での対応

- 2021年1月のパリと結んだZOOM会議
- 当時の仏特養でのコロナ死者は全体の約半数！
- 特養での感染者は緩和医療に徹した
- 医学生、看護学生が医療・介護支援に協力
- 上記2項目は、当局から文書で要請された

# 2021年4月～5月の当施設でのクラスター

- 2021年4月末に、近隣病院に骨折で入院治療を受けた後、施設に退院した利用者がCOVID-19発症
- 利用者24人、職員14人のクラスターに発展
- 死者は入居者5名で、すべて病院死亡。職員は1人を除きすべて自宅/ホテル待機
- 感染対策指導に保健所が熱心に当たってくれた。特に応援指導のDMAT経験医師に感謝！
- 4月末からワクチン接種を予定通り実施
- □□□□の不足はなし。HOTも奇跡的に十分量調達

# 今回の経験からの教訓

- 老人施設でのクラスター発生数とその致死率は、この1年間で国の内外を問わず、かなり改善している
- その理由は、施設に応じた感染増悪防御の対策指導が改善したこと。防護具の完備。ワクチン開始等によると思われる
- フランスでの昨年春の施設クラスターでの対応で学んだこと：
  - 1) 施設内での緩和医療に徹した
  - 2) 若者が支援に駆けつけた
  - 3) これらを政府が決定した（証拠の残る文書通達での政治家のある種の潔良い英断）
- 仏の対応は近未来に必ず起こる新たなパンデミックへの初期対応に対し示唆的